

日本心理学会第 87 回大会 学術大会優秀発表賞 第 2 次審査講評

審査グループ： 1A

取りまとめ役： 阿部 恒之（東北大学）

特別優秀発表賞

1A-073-PH

サルは訓練により Virtual Reality 上の身体像を 自己身体として認識する

*中村 晋也 1,2、高根 太郎 1、田島 大輔 3、内田 弘樹 3、筒井 健一郎 1、笠原 俊一 3
(1. 東北大学、2. 生理学研究所、3. 株式会社ソニーコンピュータサイエンス研究所)

優秀発表賞

1A-062-PG

1 ヶ月の内受容感覚の変化がストレス負荷時の自律神経・脳波に与える影響

*前川 亮 1、笹岡 貴史 1
(1. 広島大学)

1A-070-PH

ASD 傾向と聴覚及び視覚刺激の時間的統合の関連——想像力に注目した検討——

*辻 百合香 1,2、西口 雄基 3、野田 明莉 3、今泉 修 1
(1. お茶の水女子大学、2. 日本学術振興会、3. 千葉大学)

1A-079-PJ

ラットの食物選択における他個体への同調性

*林 鵬 1、谷内 通 1
(1. 金沢大学)

選考経過

1. グループ 1A の審査対象発表は 63 本であり、得票数の多い順に 4 票 (1 本), 3 票 (3 本), 2 票 (8 本), 1 票 (16 本), 0 票 (35 本) となりました。
2. 取りまとめ役の 3 票は、まず、一位の 1A-073-PH に 1 票入れました。しかし、二位の発表 3 本は甲乙つけがたく、1 本を選外とすることが困難でした。よって、3 本すべてに 1 票を投じさせていただきました。
3. 以上より、総合得票数 5 票の 1A-073-PH を特別優秀賞、4 票の 1A-062-PG, 1A-070-PH, 1A-079-PJ の 3 本を優秀発表賞の候補として推薦させていただくことにしました。
4. 特別優秀発表賞の 1A-073-PH は、ニホンザルがモニタ上のアバターを自己として認識できるかどうかを検討した研究であり、ユニークな方法によってニホンザルの自己身体意識にアプローチした点で、特に卓越した研究と認めました。

日本心理学会第 87 回大会 学術大会優秀発表賞 第 2 次審査講評

審査グループ： 1B

取りまとめ役： 佐藤 隆夫（人間環境大学）

特別優秀発表賞

1B-035-PC

コロナ禍では持ち物を他人のもの近くに置きたがらない

*郭 雯 1、池田 鮎美 2、高嶋 魁人 1、益田 佳卓 1、植田 航平 1、有賀 敦紀 3、
佐々木 恭志郎 4、山田 祐樹 1

(1. 九州大学、2. 北海道大学、3. 中央大学、4. 関西大学)

優秀発表賞

1B-063-PG

急性心理社会的ストレスからの回復過程は一様ではない——唾液中コルチゾール濃度の潜在
混合軌跡モデリングと子ども期逆境体験との関連——

*高橋 雄介 1、平岡 大樹 2、野村 理朗 1

(1. 京都大学、2. 福井大学・デンバー大学)

1B-084-PK

音楽テンポ記憶の保持における身体運動の役割

*若菜 慶友 1、日根 恭子 1、中内 茂樹 1

(1. 豊橋技術科学大学)

1B-089-PM

サブゴールは動機づけを高めるのか？——進捗モニタリングの参照点に着目して——

*大澤 かりん 1、清水 登大 1、外山 美樹 1

(1. 筑波大学)

選考経過

1. 最多得票数 5 票の発表が 1 本、2 位の 3 票が 3 本となりました。
2. 上記の結果は、とりまとめ役の 3 票を含む結果です。
3. 最多得票の「1B-035-PC」を特別優秀発表賞とし、3 票を獲得した 3 本を優秀発表賞としました。
4. 特別優秀発表賞の 1 本は、時宜を得たトピックであり、結果も興味深いものであり、賞に値する優れた研究であると認めます。

日本心理学会第 87 回大会 学術大会優秀発表賞 第 2 次審査講評

審査グループ： 1C

取りまとめ役： 原田 悦子（筑波大学）

特別優秀発表賞

1C-088-PN

社会情報は政治的偏見に基づくバイアスを低減できるか？——情報カスケードパラダイムを用いた実験的検討——

*金 恵璘 1,2、森 隆太郎 1,3、Mercier Hugo 4、亀田 達也 1

(1. 東京大学、2. 科学技術振興機構 さきがけ研究者、3. 日本学術振興会、
4. フランス国立科学研究センター)

優秀発表賞

1C-066-PK

行為の再認記憶における EEG マイクロステートダイナミクスの検討

*柏原 志保 1、浅井 智久 1、今水 寛 1,2

(1. 株式会社国際電気通信基礎技術研究所、2. 東京大学)

1C-083-PN

嫌いなことから始めることの合理性——Procrastination（先延ばし）とPrecrastination（前倒し）の理解に向けた実証的検討——

*安達 未来 1

(1. 大阪電気通信大学)

選考経過

得票数 8 の 1 本を特別優秀発表賞，得票数 5，4 の 2 本を優秀発表賞としました。

日本心理学会第 87 回大会 学術大会優秀発表賞 第 2 次審査講評

審査グループ： 1D

取りまとめ役： 唐沢 かおり（東京大学）

特別優秀発表賞

1D-009-PC

モンゴル遊牧社会における互酬性規範と協力行動——マルチレベル分析に基づく検討——

*坂本 剛 1、鬼木 俊次 2、Kadirbyek DAGYS 3、平田 昌弘 4

(1. 中部大学、2. 国際農林水産業研究センター、3. Mongolian University of Life Sciences、4. 帯広畜産大学)

優秀発表賞

1D-008-PC

メタバース上での活動が現実空間の心理・身体的対人距離に及ぼす影響

*雨宮 怜 1

(1. 筑波大学)

1D-074-PM

顔と声による多感覚的な感情の表示規則における文化差の検討

*河原 美彩子 1,2,3、田中 章浩 3

(1. 東京大学、2. 日本学術振興会、3. 東京女子大学)

選考経過

1. 最多得票数 9 票の発表が 2 本、5 票が 1 本となりました。
2. 取りまとめ役の 3 票は 1D-009-PC、1D-043-PH、1D-079-PN に入れました。その結果、10 票が 1 本、9 票が 1 本、5 票が 1 本となり、これらを優秀発表賞の候補としました。
3. その上で、10 票を獲得した「1D-009-PC」を特別優秀発表賞とし、他の 2 本を優秀発表賞としました。
4. 特別優秀発表賞の 1 本は、モンゴル国から得たデータに基づき、互酬性規範と協力行動との関係について、マルチレベル分析を用いて検討したもので、協力行動を規定するマイクロマクロ要因の影響解明を巡る、特に卓越した研究と認めました。

日本心理学会第 87 回大会 学術大会優秀発表賞 第 2 次審査講評

審査グループ： 2A

取りまとめ役： 北村 英哉（東洋大学）

特別優秀発表賞

2A-046-PH

不安が味知覚へ及ぼす影響——味知覚処理プロセスの観点からの検討——

*函師 直弥 1、パルスキアエルナンデス モニカ 2、綾部 早穂 1

(1. 筑波大学、2. 奈良先端科学技術大学院大学)

優秀発表賞

2A-007-PB

動機づけと脱個人化が攻撃行動に与える影響

*三村 遼平 1,2、一川 誠 1、若林 明雄 1

(1. 千葉大学、2. 兵庫県警察本部)

2A-089-P0

オンライン伴走支援が生活困窮世帯の子どもと保護者の心理的变化に及ぼす影響——ランダム化比較試験による検討——

*池田 利基 1、金子 楓 1、三宅 善子 1

(1. 認定非営利活動法人カタリバ)

選考経過

最多得票数 4 票 1 本を特別優秀発表とし、3 票 3 本のうち、とりまとめ者が追加で票を入れたものを含み 2 本を優秀発表候補とした。

日本心理学会第 87 回大会 学術大会優秀発表賞 第 2 次審査講評

審査グループ： 2B

取りまとめ役： 石金 浩史（専修大学）

特別優秀発表賞

2B-045-PI

コミュニケーションと文化伝達による語順規則の創発——繰り返し学習実験による検討——

*中田 星矢 1、大平 朱莉 2、竹澤 正哲 2

(1. 東京大学、2. 北海道大学)

優秀発表賞

2B-053-PI

ヒト、動物、ロボットの視線に対する注意特性——社会的な関係性と逆空間ストループ効果——

*石川 健太 1、小山 貴士 1、田中 嘉彦 1、大久保 街亜 1

(1. 専修大学)

2B-077-P0

絵に表れる友だちへの気持ち——描画を用いた幼児の親密さ測定手法の検討——

*篠原 亜佐美 1、檜崎 雅 2、小林 哲生 1

(1. NTT コミュニケーション科学基礎研究所、2. るんびにこどもえん)

選考経過

最多得票（7票）は1本で、特別優秀発表賞としました。次点（6票）が2本で優秀発表賞としました。取りまとめ役の3票は上記3本に入れましたので、最終的に特別優秀発表賞が8票、優秀発表賞が7票で2本並ぶ形となりました。特別優秀発表賞の1本は、「コミュニケーションと文化伝達による語順規則の創発」と題するものであり、特に卓越した研究と認めました。

日本心理学会第 87 回大会 学術大会優秀発表賞 第 2 次審査講評

審査グループ： 2C

取りまとめ役： 四本 裕子（東京大学）

特別優秀発表賞

2C-062-P0

高齢者を対象としたライフ・エンディングワーク実践の効果検証——ランダム化比較試験——

*川島 大輔 1、*建部 智美 1

(1. 中京大学)

優秀発表賞

2C-009-PC

親密な関係における感情の相互依存は愛着傾向に調整される？——Dynamic APIM モデルを用いる探索的な検討——

*謝 新宇 1、相馬 敏彦 1、古村 健太郎 2、金政 祐司 3

(1. 広島大学人間社会科学研究科、2. 弘前大学人文社会科学部、3. 追手門学院大学心理学研究科)

2C-039-PI

マルチタスク中のプロアクティブ・リアクティブ処理に対する周辺情報の影響

*木村 司 1、川島 朋也 2

(1. 大阪大学産業科学研究所、2. 大阪大学)

選考経過

票数に応じて決めました。優秀発表賞の候補は4つありましたが、発表部門のバランスを考慮して2つに絞りました。

日本心理学会第 87 回大会 学術大会優秀発表賞 第 2 次審査講評

審査グループ： 2D

取りまとめ役： 金井 篤子（名古屋大学）

特別優秀発表賞

2D-082-PP

VR を用いた未来の自己との対話——未来の鮮明さ・肯定性・キャリアレディネスに及ぼす影響——

*千島 雄太 1

(1. 筑波大学)

優秀発表賞

2D-011-PC

誰かが担わなければいけない仕事を誰がいつ担うのか——ボランティアのジレンマでの意思決定に関する計算論モデリング——

*ターン 有加里ジェシカ 1,2、大坪 庸介 1、唐沢 かおり1

(1. 東京大学、2. 日本学術振興会)

2D-050-PI

呼吸リズムは自己所有感の再構成を促進する

*本間 元康 1、小菅 美玖 1、政岡 ゆり 1、小菅 将太 1、中山 桃歌 2、上條 翔太郎 1、鹿間 裕介 1、泉崎 雅彦 1

(1. 昭和大学、2. 電通ラボ東京)

選考経過

1. 最多得票数 11 票の発表が 1 本、6 票の発表が 2 本となりました。それ以降は 3 票だったので、この 3 本が候補となりました。
2. 取りまとめ役の 3 票は内容を確認したうえで、上記 3 本にそれぞれ 1 票ずつ入れました。
3. 結果、12 票が 1 本、7 票が 2 本となり、12 票を特別優秀発表賞、7 票の 2 本を優秀発表賞としました。
4. 特別優秀発表賞の 1 本は近年発達してきた VR を利用して、未来の自分と会話することにより、未来のイメージの形成を促進し、キャリアレディネスが高まるというもので、VR の利用法、およびキャリアレディネスの形成の 2 つの点から有用な研究と認められました。

日本心理学会第 87 回大会 学術大会優秀発表賞 第 2 次審査講評

審査グループ： 3A

取りまとめ役： 山田 剛史（関西大学）

特別優秀発表賞

3A-050-P0

善行の後に利己的な振る舞いをする人はどう評価されるのか？——モラルライセンシングをする他者への道徳的評価と社会的選好の発達の検討——

*池田 彩夏 1、本山 陽菜 1、奥村 優子 2

(1. 専修大学、2. NTT コミュニケーション科学基礎研究所)

優秀発表賞

3A-004-PC

難聴者におけるスティグマ意識——スティグマへの懸念がある難聴者は合理的配慮や援助の受け入れに消極的か？——

*勝谷 紀子 1,2、佐野 智子 3、松尾 朗子 1

(1. 東京大学、2. 放送大学、3. 城西国際大学)

3A-037-PI

社会的排斥による血行動態の変化： 全末梢血管抵抗値と心拍出量による検討

*金谷 悠太 1、川合 伸幸 1,2

(1. 国立大学法人東海国立大学機構 名古屋大学、2. 中部大学 創発学術院)

3A-040-PI

集団にマイノリティが含まれる確率の過小視

*新美 亮輔 1

(1. 新潟大学)

選考経過

最多得票数 5 票の発表が 3 本、4 票が 1 本となりました。取りまとめ役の 3 票は 5 票の発表 2 本（3A-050-P0 と 3A-037-PI）と 4 票の発表 1 本（3A-004-PC）に入れました。その上で、6 票の 2 本から特に優れていると判断した「3A-050-P0」を特別優秀発表賞とし、他の 3 本を優秀発表賞としました。特別優秀発表賞の 1 本は、近年研究が急増しているモラルライセンシングに着目し、他者の振る舞いに対する評価という視点から発達的な変化を明らかにしており、今後の発展にも期待が持てる特に卓越した研究と認めました。

日本心理学会第 87 回大会 学術大会優秀発表賞 第 2 次審査講評

審査グループ： 3B

取りまとめ役： 矢藤 優子（立命館大学）

特別優秀発表賞

3B-058-P0

乳児における表情刺激への価値駆動的な視線行動

*石川 光彦 1,2、ティム スミス 2

(1. 同志社大学、2. ロンドン大学バークベック校)

優秀発表賞

3B-054-P0

日本の幼児の感情理解の発達——日本語版 TEC (Test of Emotion Comprehension) を用いた
検討——

*溝川 藍 1、子安 増生 2、古見 文一 3

(1. 名古屋大学、2. 京都大学、3. 静岡大学)

3B-081-PQ

タイムラグ分析による職場の孤立・孤独感の 3 側面の因果関係の検討——職場における孤立・
孤独化過程の検討 (11) ——

*松尾 藍 1、中村 准子 2、尾野 裕美 2、桃谷 裕子 2、松井 豊 2

(1. 北陸学院大学、2. 筑波大学)

選考経過

得票数 3 位 (3 票) のものが 4 本ありましたが、取りまとめ役の 3 票は上記 3 本に入りました。よって 4 票が 2 本となり、これらを優秀発表賞の候補としました。

日本心理学会第 87 回大会 学術大会優秀発表賞 第 2 次審査講評

審査グループ： 3C

取りまとめ役： 矢島 潤平（別府大学）

特別優秀発表賞

3C-028-PI

脳内将棋盤から探る視覚イメージの多様性

*高橋 康介 1、氏家 悠太 2,1、吉村 直人 1,3、善本 悠介 1、武富 礼衣 4,1

(1. 立命館大学、2. 立教大学、3. 日本学術振興会特別研究員 PD、4. 日本将棋連盟)

優秀発表賞

3C-008-PD

脳損傷患者の立方体透視図模写の描き順分析

*依光 美幸 1、長尾 卯乃 1、矢藤 優子 2、幕内 充 3、山田 良治 1

(1. 地方独立行政法人 東京都立病院機構 東京都立駒込病院、2. 立命館大学、3. 国立障害者リハビリテーションセンター研究所 脳機能系障害研究部門 高次脳機能障害研究室)

3C-044-P0

母親の小児期逆境体験が子供の神経心理学的発達に与える影響——産後うつとボンディング障害による媒介効果の検証——

*陳 冲 1、大久保 亮 2、大川 純代 3、中川 伸 1、田淵 貴大 4

(1. 山口大学大学院医学系研究科高次脳機能病態学講座、2. 帯広病院精神科、3. 国立国際医療研究センター国際医療協力局グローバルヘルス政策研究センター、4. 大阪国際がんセンター がん対策センター)

選考経過

1. はじめに、審査委員の票数から、最多得票数（7 票）を獲得した演題「脳損傷患者の立方体透視図模写の描き順分析」を特別優秀発表賞と決定しました。
2. 次点得票数 4 票の演題が 3 本あり、これを優秀賞の候補としました。残りの演題は 1 から 3 票のため賞の対象からは外しました。
3. とりまとめ役の 3 票は、最多得票数の演題（7+1 で 8 票）と次点得票数の 2 演題に入れました。
4. その結果、優秀発表賞は、5 票を獲得した、「脳損傷患者の立方体透視図模写の描き順分析」と「母親の小児期逆境体験が子供の神経心理学的発達に与える影響」の 2 演題としました。

日本心理学会第 87 回大会 学術大会優秀発表賞 第 2 次審査講評

審査グループ： 3D

取りまとめ役： 杉若 弘子（同志社大学）

特別優秀発表賞

3D-017-P0

幼児における観察した複数の事象の確率情報の統合

*林 冬実 1、中道 圭人 2

(1. 東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科、2. 千葉大学)

優秀発表賞

3D-023-P0

幼児は感情反応から他者の好みを予測するか——幼児における確率的な証拠に基づく感情推測

*高橋 実里 1,2、中道 圭人 3

(1. 東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科、2. 千葉大学国際高等研究基幹、
3. 千葉大学)

3D-028-P0

話者交替判断時の視覚的注意配分パターンと ASD 傾向の関係

*杉山 恵里奈 1、太田 直斗 1,2、平井 真洋 1、北神 慎司 1

(1. 名古屋大学、2. 日本学術振興会)

3D-050-PQ

報告文の専門的記述が具象性と心像性に及ぼす影響

*岡田 安功 1、北村 康宏 1

(1. 公益財団法人鉄道総合技術研究所)

選考経過

1. 最多得票数 3 票の発表が 3 本、2 票が 5 本でした。
2. とりまとめ役の 3 票は、上記に含まれる 3 本に入れました。
3. その結果、4 票が 2 本、3 票が 2 本になりました。
4. 4 票入った 2 本のうち、1 本は対象者の選定にさらなる工夫を期待して優秀発表賞に留めました。
5. 特別優秀発表賞の 1 本は、幼児が複数事象の観察を通して法則を見出すプロセスを工夫ある実験手続きで検討した優れた研究であると認めました。